

第46回評価監視委員会の開催について

第46回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	平成27年6月29日(月)15:00～17:00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 (五十音順)	木下 誠也(日本大学生産工学部土木工学科 教授) 佐藤 淳(公認会計士) 佐野 洋(元 会計検査院 事務総長官房審議官) 寺川 祐一(委員長(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会専務理事)) 幕 亮二((株)三菱総合研究所 社会公共マネジメント研究本部)	
当 会	コスト調査部 長島 泰博、川野辺 豊、笹井 功一、板谷 成敏 土木調査部 原田 邦裕、大谷 忠広、斉藤 達也、本間 哲 建築調査部 藤井 郁夫、上田 浩嗣 調査統括部 鈴木 昌樹 維持改修調査推進室 佐藤 宏道 監査審査室 渡部 利也、葦浦 正己	
審議案件	案 件	備 考
	(定期調査) 平鋼 東京地区	「建設物価」平成27年7月号21頁掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(受託調査) ミニシールド用セグメント 福岡県福岡市	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・質問、それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について 平鋼（東京地区）</p> <p>○ 分野別の利用割合で販売者向けが46%とあるが、これの最終用途は何か。</p> <p>○ 産業機械向け、船舶・鉄道向けはどちらかというひも付きになるのか。</p> <p>○ 調査対象としている代表規格の厚6mm×幅50mmというのは、ほぼ建設向けと言ってよいか。</p> <p>○ 競合品である中厚板には平鋼と違って他にどんな用途があるのか。また、価格差として考えられる要因は何か。</p> <p>○ 平鋼と中厚板はどちらの方が需要が多いのか。</p> <p>○ 東北地区や北海道地区にはメーカーの工場がないが、これらの地区は運賃がプラスされて高くなるのか。</p> <p>○ 掲載価格を見ると、東京価格と大阪価格にはかなりの価格差があるが、この要因は何か。</p> <p>○ 東京価格と大阪価格に価格差があるのは、平鋼に限らず鋼材全般に言える傾向か。</p> <p>○ 特約店・地方特約店が取引するメーカーは決まっているのか。</p> <p>○ 調査対象先の選定は毎回変えているのか。それともいつも同じところで調査しているのか。</p> <p>○ 最頻値で掲載価格を決めるとすると、調査件数が5社だと3社で決まるということか。</p>	<p>○ かなりの部分が建設向けである。</p> <p>○ ひも付きになる。</p> <p>○ 平鋼は色々なものに使用されるので、一概には言い切れない。</p> <p>○ 用途は主に切板向けになる。厚板を切断したものが平鋼の競合品となるので切断費用分が価格差になる。</p> <p>○ 圧倒的に中厚板であり、特に厚板が多い。</p> <p>○ 新潟、仙台ぐらいまでなら運賃に差はみられないが、北海道だと船便になることから割高になる。</p> <p>○ 大阪地区はメーカー数が多く、価格競争が激しいためである。</p> <p>○ 鋼材全般に言える傾向である。</p> <p>○ 取引をするメーカーは決まっている。</p> <p>○ 基本的には調査先を固定し、価格の推移も含め調査している。</p> <p>○ 最頻値とシェア（特約店の扱量）などを考慮したうえで決定している。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について ミニシールド用セグメント（福岡県福岡市）</p> <p>○ ミニシールド工法はどのようなところで使われるのか。</p> <p>○ これから下水道管の更新時期を迎えるが、ミニシールド工法は増えないのか。</p> <p>○ このような調査依頼は色々な自治体から来るのか。</p> <p>○ 鋼製セグメントのメーカーはA社がシェアのほとんどを占めているようだが、今回の調査では他の会社にも依頼をしたのか。</p> <p>○ RCセグメントの運搬方法は海上輸送か。</p> <p>○ 発注者からは必ずこのような調査依頼があるのか。</p> <p>○ 調査を行う場合は、必ず複数の会社から調査をしなくてはならないのか。</p> <p>○ 調査開始前には、必ず発注者と進め方について打ち合わせるのか。</p> <p>○ 材料調査以外に工事費調査の依頼はなかったのか。</p> <p>○ セグメントはRCも鋼製も在庫品か。</p>	<p>○ 主に都市部で下水道管の口径が小さいところである。また、延長が長く、途中に大きな曲線部があって推進工法が使えないところで使用される。</p> <p>○ 現在は既存の下水道管を利用して更新していく方法が主流で、新たに穴を掘っていく工法は少なくなっている。</p> <p>○ 全国の自治体から調査依頼が来ている。</p> <p>○ 当会が把握している、今まで製作実績のある4社にも依頼している。</p> <p>○ 基本的には陸上輸送になる。今回は納入先が福岡市のため、6社の中で一番近い熊本の工場から陸上輸送されている。</p> <p>○ 発注者によっては、発注者自身で見積りを取って積算するところもあれば、当会のような調査会社を通して設計価格を設定するところもある。</p> <p>○ 1社では水準が正しいのか判断がつかないため、複数社から見積りを取って確認している。</p> <p>○ 初回の打ち合わせで調査の進め方について協議している。</p> <p>○ 標準歩掛があるので工事費調査はなかった。一般的に標準歩掛から外れたものが依頼される。</p> <p>○ 受注品である。注文毎に製作している。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○ 次回評価監視委員会は、平成27年10月下旬に開催予定。</p>	